

# 四半期報告書

平成24年12月第3四半期

〔自 平成24年10月1日〕  
〔至 平成24年12月31日〕

**トヨタ自動車株式会社**

E 0 2 1 4 4

平成24年12月第3四半期（自平成24年10月1日 至平成24年12月31日）

# 四 半 期 報 告 書

- 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成25年2月14日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	8
第4 【経理の状況】 .....	9
1 【四半期連結財務諸表】 .....	10
2 【その他】 .....	34
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	35

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月14日

【四半期会計期間】 平成24年12月第3四半期  
(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

【会社名】 トヨタ自動車株式会社

【英訳名】 TOYOTA MOTOR CORPORATION

【代表者の役職氏名】 取締役社長 豊田章男

【本店の所在の場所】 愛知県豊田市トヨタ町1番地

【電話番号】 <0565>28-2121

【事務連絡者氏名】 経理部主計室長 牧野賢一郎

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区後楽一丁目4番18号

【電話番号】 <03>3817-7111

【事務連絡者氏名】 広報部メディアリレーション室長 藤井英樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

証券会員制法人札幌証券取引所  
(札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

会計期間	平成23年12月 前第3四半期 連結累計期間	平成24年12月 当第3四半期 連結累計期間	平成24年3月期
	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	12,881,127 (4,865,205)	16,227,106 (5,318,752)	18,583,653
税金等調整前四半期(当期)純利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	197,199 (198,602)	925,786 (131,249)	432,873
当社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	162,525 (80,944)	648,183 (99,914)	283,559
四半期包括利益・損失(△)又は包括利益 (百万円)	△ 126,072	986,472	341,694
純資産額 (百万円)	10,603,521	11,815,953	11,066,478
総資産額 (百万円)	28,761,679	32,157,040	30,650,965
基本1株当たり当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	51.83 (25.81)	204.68 (31.55)	90.21
希薄化後1株当たり当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	51.83 (25.81)	204.67 (31.55)	90.20
株主資本比率 (%)	34.9	35.0	34.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	770,693	1,746,224	1,452,435
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△ 1,083,928	△ 2,352,970	△ 1,442,658
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△ 109,339	145,701	△ 355,347
現金及び現金同等物四半期末(期末)残高 (百万円)	1,533,578	1,241,499	1,679,200

- (注) 1 当社の四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成しています。
- 2 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 3 売上高は消費税等を含みません。

#### 2 【事業の内容】

四半期連結財務諸表提出会社（以下、当社という。）は、米国会計基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成しており、関係会社の範囲についても米国会計基準の定義に基づいています。「第2 事業の状況」においても同様です。

当社および当社の関係会社においては、自動車事業を中心に、金融事業およびその他の事業を行っています。

当第3四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当該事業に携わっている主要な関係会社に異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、事業等のリスクについて新たに生じた重要な事項および重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における日本、海外を合わせた自動車の連結販売台数は、662万9千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて163万4千台（32.7%）の増加となりました。日本での販売台数については、166万8千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて31万1千台（22.9%）の増加となりました。一方、海外においても、496万1千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて132万3千台（36.4%）の増加となりました。

当第3四半期連結累計期間の業績については、売上高は16兆2,271億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて3兆3,459億円（26.0%）の増収となり、営業利益は8,185億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて7,013億円（7.0倍）の増益となりました。営業利益の増減要因については、増益要因として、営業面の努力が6,600億円、原価改善の努力が3,200億円ありました。一方、減益要因として、諸経費の増加ほか2,400億円、為替変動の影響が100億円、その他の要因が287億円ありました。また、税金等調整前四半期純利益は9,257億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて7,285億円（4.7倍）の増益、当社株主に帰属する四半期純利益は6,481億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて4,856億円（4.0倍）の増益となりました。

事業別セグメントの業績は、次のとおりです。

①自動車事業

売上高は15兆180億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて3兆3,026億円（28.2%）の増収となり、営業利益は5,417億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて6,946億円の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数の増加ならびに原価改善の努力などによるものです。

②金融事業

売上高は8,477億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて194億円（2.4%）の増収となりましたが、営業利益は2,435億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて109億円（4.3%）の減益となりました。営業利益の減益は、販売金融子会社において、貸倒関連損益の影響があったことなどによるものです。

③その他の事業

売上高は7,580億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて401億円（5.6%）の増収となり、営業利益は378億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて146億円（62.9%）の増益となりました。

所在地別の業績は、次のとおりです。

①日本

売上高は9兆3,825億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1兆7,048億円（22.2%）の増収となり、営業利益は2,664億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて5,729億円の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数の増加ならびに原価改善の努力などによるものです。

②北米

売上高は4兆5,687億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1兆2,498億円（37.7%）の増収となり、営業利益は1,654億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて136億円（9.0%）の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数が増加したことなどによるものです。

③欧州

売上高は1兆5,179億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて319億円（2.1%）の増収となり、営業利益は213億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて127億円（2.5倍）の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数が増加したことなどによるものです。

④アジア

売上高は3兆2,744億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1兆431億円（46.7%）の増収となり、営業利益は2,863億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて1,152億円（67.4%）の増益となりました。営業利益の増益は、生産および販売台数が増加したことなどによるものです。

⑤その他の地域（中南米、オセアニア、アフリカ）

売上高は1兆5,146億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて2,304億円（17.9%）の増収となりましたが、営業利益は910億円と、前年同四半期連結累計期間に比べて49億円（5.1%）の減益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況については、営業活動からのキャッシュ・フローは、1兆7,462億円の資金の増加となり、前年同四半期連結累計期間が7,706億円の増加であったことに比べて、9,755億円の増加となりました。また、投資活動からのキャッシュ・フローは、2兆3,529億円の資金の減少となり、前年同四半期連結累計期間が1兆839億円の減少であったことに比べて、1兆2,690億円の減少となりました。財務活動からのキャッシュ・フローは、1,457億円の資金の増加となり、前年同四半期連結累計期間が1,093億円の減少であったことに比べて、2,550億円の増加となりました。これらの増減に加え、為替換算差額を合わせますと、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、1兆2,414億円と、前連結会計年度末に比べて4,377億円(26.1%)減少しました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費は、6,060億円です。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間における日本、海外を合わせた自動車の連結生産台数は、642万8千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて140万3千台(27.9%)の増加となりました。また、当第3四半期連結累計期間における日本、海外を合わせた自動車の連結販売台数は、662万9千台と、前年同四半期連結累計期間に比べて163万4千台(32.7%)の増加となりました。これらは、前年同四半期連結累計期間の連結生産台数および連結販売台数が、東日本大震災の影響を受けて減少したことなどによるものです。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000,000
計	10,000,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,447,997,492	3,447,997,492	東京、名古屋、大阪、 福岡、札幌、ニューヨ ーク、ロンドン各証券 取引所(東京、名古屋、 大阪は市場第1部)	単元株式数 100株
計	3,447,997,492	3,447,997,492	—	—

(注) 発行済株式は、すべて議決権を有する株式です。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	—	3,447,997	—	397,049	—	416,970

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿により記載しています。

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等) (注) 1	普通株式 285,968,000	—	—
完全議決権株式(その他) (注) 2	普通株式 3,159,376,200	31,593,762	—
単元未満株式	普通株式 2,653,292	—	—
発行済株式総数	3,447,997,492	—	—
総株主の議決権	—	31,593,762	—

(注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」は、自己株式281,192,000株と相互保有株式4,776,000株です。

2 「完全議決権株式(その他)」には、(株)証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権30個)含まれています。

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
トヨタ自動車(株) [自己株式]	愛知県豊田市トヨタ町 1番地	281,192,000	—	281,192,000	8.16
豊田合成(株)	愛知県清須市春日長畑 1番地	1,740,200	—	1,740,200	0.05
名古屋テレビ放送(株)	愛知県名古屋市中区橋 二丁目10番1号	609,500	—	609,500	0.02
豊田鉄工(株)	愛知県豊田市細谷町四丁目 50番地	500,000	—	500,000	0.01
アイシン高丘(株)	愛知県豊田市高丘新町天王 1番地	473,100	—	473,100	0.01
富士通テン(株)	兵庫県神戸市兵庫区御所通 一丁目2番28号	334,300	—	334,300	0.01
豊臣機工(株)	愛知県安城市今本町東向山 7番地	317,100	—	317,100	0.01
京三電機(株)	茨城県古河市丘里11番地3	222,400	—	222,400	0.01
トヨタ紡織(株)	愛知県刈谷市豊田町一丁目 1番地	201,300	—	201,300	0.01
トリニティ工業(株)	愛知県豊田市柿本町一丁目 9番地	145,400	—	145,400	0.00
アイシン・エイ・ ダブリュ(株)	愛知県安城市藤井町高根 10番地	100,100	—	100,100	0.00
愛三工業(株)	愛知県大府市共和町一丁目 1番地の1	71,700	—	71,700	0.00
(株)東海理化電機製作所	愛知県丹羽郡大口町豊田 三丁目260番地	25,900	—	25,900	0.00
ネッツトヨタ西日本(株)	福岡県福岡市博多区西月隈 三丁目1番48号	12,700	—	12,700	0.00
大豊工業(株)	愛知県豊田市緑ヶ丘三丁目 65番地	10,000	—	10,000	0.00
アイシン軽金属(株)	富山県射水市奈呉の江 12番地の3	9,900	—	9,900	0.00
ナミヨー(株)	兵庫県伊丹市東有岡一丁目 65番地	2,000	—	2,000	0.00
津田工業(株)	愛知県刈谷市幸町一丁目 1番地1	200	—	200	0.00
トヨタエルアンドエフ 岩手(株)	岩手県紫波郡矢巾町流通セ ンター南三丁目10番2号	200	—	200	0.00
計	—	285,968,000	—	285,968,000	8.29

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第95条の規定を適用し、米国預託証券の発行等に関して要請されている用語、様式及び作成方法、即ち、米国において一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成しています。

また、四半期連結財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を四捨五入して表示しています。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）および第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けています。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び現金同等物	1,679,200	1,241,499
定期預金	80,301	124,090
有価証券	1,181,070	1,404,085
受取手形及び売掛金 ＜貸倒引当金控除後＞	1,999,827	1,568,066
金融債権＜純額＞	4,114,897	4,725,232
未収入金	408,547	338,587
たな卸資産	1,622,282	1,623,827
繰延税金資産	718,687	681,810
前払費用及びその他	516,378	546,363
流動資産合計	12,321,189	12,253,559
長期金融債権＜純額＞	5,602,462	6,315,750
投資及びその他の資産		
有価証券及びその他の 投資有価証券	4,053,572	4,673,940
関連会社に対する投資 及びその他の資産	1,920,987	1,995,755
従業員に対する 長期貸付金	56,524	57,305
その他	460,851	459,515
投資及びその他の資産合計	6,491,934	7,186,515
有形固定資産		
土地	1,243,261	1,274,156
建物	3,660,912	3,750,410
機械装置	9,094,399	9,340,083
賃貸用車両及び器具	2,575,353	2,786,756
建設仮勘定	275,357	274,785
小計	16,849,282	17,426,190
減価償却累計額＜控除＞	△ 10,613,902	△ 11,024,974
有形固定資産合計	6,235,380	6,401,216
資産合計	30,650,965	32,157,040

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当第3四半期 連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
短期借入債務	3,450,649	4,043,692
1年以内に返済予定の 長期借入債務	2,512,620	2,429,631
支払手形及び買掛金	2,242,583	1,711,542
未払金	629,093	590,429
未払費用	1,828,523	1,843,301
未払法人税等	133,778	184,206
その他	984,328	1,078,748
流動負債合計	11,781,574	11,881,549
固定負債		
長期借入債務	6,042,277	6,423,604
未払退職・年金費用	708,402	729,405
繰延税金負債	908,883	1,030,194
その他	143,351	276,335
固定負債合計	7,802,913	8,459,538
負債合計	19,584,487	20,341,087
純資産の部		
株主資本		
資本金	397,050	397,050
発行可能株式総数： 平成24年3月31日および 平成24年12月31日 10,000,000,000株		
発行済株式総数： 平成24年3月31日および 平成24年12月31日 3,447,997,492株		
資本剰余金	550,650	551,471
利益剰余金	11,917,074	12,375,236
その他の包括利益・ 損失(△)累計額	△ 1,178,833	△ 926,525
自己株式	△ 1,135,680	△ 1,135,449
自己株式数： 平成24年3月31日 281,187,739株 平成24年12月31日 281,134,297株		
株主資本合計	10,550,261	11,261,783
非支配持分	516,217	554,170
純資産合計	11,066,478	11,815,953
契約債務及び偶発債務		
負債純資産合計	30,650,965	32,157,040

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

## 【四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (平成23年12月31日に 終了した9ヶ月間)	当第3四半期連結累計期間 (平成24年12月31日に 終了した9ヶ月間)
売上高		
商品・製品売上高	12,074,816	15,400,712
金融収益	806,311	826,394
売上高合計	12,881,127	16,227,106
売上原価並びに販売費及び 一般管理費		
売上原価	11,009,935	13,420,793
金融費用	433,742	427,598
販売費及び一般管理費	1,320,339	1,560,208
売上原価並びに販売費及び 一般管理費合計	12,764,016	15,408,599
営業利益	117,111	818,507
その他の収益・費用(△)		
受取利息及び受取配当金	79,719	84,426
支払利息	△ 14,830	△ 18,985
為替差益<純額>	1,074	13,366
その他<純額>	14,125	28,472
その他の収益・費用(△)合計	80,088	107,279
税金等調整前四半期純利益	197,199	925,786
法人税等	124,325	378,199
持分法投資損益	135,182	182,044
非支配持分控除前 四半期純利益	208,056	729,631
非支配持分帰属損益	△ 45,531	△ 81,448
当社株主に帰属する 四半期純利益	162,525	648,183

1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益		
基    本	51円83銭	204円68銭
希薄化後	51円83銭	204円67銭

【四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (平成23年12月31日に 終了した9ヶ月間)	当第3四半期連結累計期間 (平成24年12月31日に 終了した9ヶ月間)
非支配持分控除前四半期純利益	208,056	729,631
その他の包括利益・損失(△)－税効果考慮後		
外貨換算調整額	△ 307,308	121,442
未実現有価証券評価損益 <組替修正考慮後>	△ 30,088	127,053
年金債務調整額	3,268	8,346
その他の包括利益・損失(△)合計	△ 334,128	256,841
四半期包括利益・損失(△)	△ 126,072	986,472
非支配持分帰属四半期包括損益	△ 24,824	△ 85,981
当社株主に帰属する四半期包括利益・損失(△)	△ 150,896	900,491



【第3四半期連結会計期間】

【四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日に 終了した3ヶ月間)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日に 終了した3ヶ月間)
売上高		
商品・製品売上高	4,601,657	5,024,823
金融収益	263,548	293,929
売上高合計	4,865,205	5,318,752
売上原価並びに販売費及び 一般管理費		
売上原価	4,126,047	4,435,517
金融費用	128,588	162,539
販売費及び一般管理費	460,886	595,939
売上原価並びに販売費及び 一般管理費合計	4,715,521	5,193,995
営業利益	149,684	124,757
その他の収益・費用(△)		
受取利息及び受取配当金	29,111	29,937
支払利息	△ 3,047	△ 6,190
為替差益・差損(△)＜純額＞	14,948	△ 13,662
その他＜純額＞	7,906	△ 3,593
その他の収益・費用(△)合計	48,918	6,492
税金等調整前四半期純利益	198,602	131,249
法人税等	152,535	67,353
持分法投資損益	55,656	58,187
非支配持分控除前 四半期純利益	101,723	122,083
非支配持分帰属損益	△ 20,779	△ 22,169
当社株主に帰属する 四半期純利益	80,944	99,914

1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益		
基    本	25円81銭	31円55銭
希薄化後	25円81銭	31円55銭

【四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日に 終了した3ヶ月間)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日に 終了した3ヶ月間)
非支配持分控除前四半期純利益	101,723	122,083
その他の包括利益・損失(△)－税効果考慮後		
外貨換算調整額	△ 4,471	337,702
未実現有価証券評価損益 <組替修正考慮後>	△ 9,836	195,795
年金債務調整額	709	5,652
その他の包括利益・損失(△)合計	△ 13,598	539,149
四半期包括利益	88,125	661,232
非支配持分帰属四半期包括損益	△ 18,140	△ 44,708
当社株主に帰属する四半期包括利益	69,985	616,524

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (平成23年12月31日に 終了した9ヶ月間)	当第3四半期連結累計期間 (平成24年12月31日に 終了した9ヶ月間)
営業活動からのキャッシュ・フロー		
非支配持分控除前四半期純利益	208,056	729,631
営業活動から得た現金<純額>への 非支配持分控除前四半期純利益の調整		
減価償却費	791,835	798,913
貸倒引当金及び金融損失引当金繰入額	△ 1,313	15,786
退職・年金費用<支払額控除後>	4,655	11,349
固定資産処分損	20,698	26,079
売却可能有価証券の未実現評価損<純額>	3,706	2,074
繰延税額	29,468	46,108
持分法投資損益	△ 135,182	△ 182,044
資産及び負債の増減ほか	△ 151,230	298,328
営業活動から得た現金<純額>	770,693	1,746,224
投資活動からのキャッシュ・フロー		
金融債権の増加	△ 6,177,455	△ 7,345,914
金融債権の回収及び売却	5,970,145	6,564,843
有形固定資産の購入<賃貸資産を除く>	△ 463,187	△ 568,534
賃貸資産の購入	△ 555,203	△ 774,067
有形固定資産の売却<賃貸資産を除く>	21,341	23,795
賃貸資産の売却	334,115	364,631
有価証券及び投資有価証券の購入	△ 2,424,890	△ 2,588,128
有価証券及び投資有価証券の売却及び満期償還	2,195,803	1,989,494
投資及びその他の資産の増減ほか	15,403	△ 19,090
投資活動に使用した現金<純額>	△ 1,083,928	△ 2,352,970
財務活動からのキャッシュ・フロー		
長期借入債務の増加	1,422,742	2,033,503
長期借入債務の返済	△ 1,891,213	△ 2,064,900
短期借入債務の増加	548,278	411,335
配当金支払額	△ 156,785	△ 190,008
自己株式の取得ほか	△ 32,361	△ 44,229
財務活動から得た又は使用した(△)現金<純額>	△ 109,339	145,701
為替相場変動の現金及び現金同等物に対する影響額	△ 124,557	23,344
現金及び現金同等物純減少額	△ 547,131	△ 437,701
現金及び現金同等物期首残高	2,080,709	1,679,200
現金及び現金同等物四半期末残高	1,533,578	1,241,499

## 四半期連結財務諸表注記

### 1 会計処理の原則および手続ならびに四半期連結財務諸表の表示方法

当社は、平成11年9月にニューヨーク証券取引所に上場し、米国預託証券の発行等に関して要請されている用語、様式及び作成方法により連結財務諸表を作成し、米国証券取引委員会に登録しています。

当社の四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる会計原則（米国会計基準）に基づいて作成されています。なお、米国会計基準により要請される記載および注記の一部が省略されています。

当社および連結子会社（以下、トヨタという。）が採用している会計処理の原則および手続ならびに四半期連結財務諸表の表示方法のうち、我が国における会計処理の原則および手続ならびに四半期連結財務諸表の表示方法と異なるもので重要性のあるものは以下のとおりです。

#### (1) 子会社の判定基準

米国会計基準では、連結の対象となる子会社の判定を持株基準（50%超）を基礎として行っています。我が国において一般に公正妥当と認められる会計原則（日本会計基準）では、持株基準による子会社に加え、支配力基準による子会社を連結の対象としています。

#### (2) 持分法投資損益の表示区分

日本会計基準では、営業外損益の「持分法による投資損益」として表示していますが、米国会計基準では、「税金等調整前四半期純利益」の後に区分表示しています。

#### (3) 非支配持分

米国会計基準では、親会社持分同様、子会社における非支配持分も連結会社に対する持分とされています。これに基づき、四半期純利益を当社株主に帰属する金額と非支配持分に帰属する金額に区分して表示しています。日本会計基準では、親会社持分のみが連結会社に対する持分とされており、当社株主に帰属する金額のみを四半期純利益として表示しています。

#### (4) 未払退職・年金費用

米国会計基準では、確定給付退職後制度の積立超過または積立不足を前払退職・年金費用または未払退職・年金費用として四半期連結貸借対照表に認識し、当該財政状態の変動は、その変動が生じた四半期連結会計期間に包括利益の変動として認識されます。また、数理計算上の差異は、期首時点の当該残高が予測給付債務と年金資産の公正価値のうちいずれか大きい額の10%と定義される回廊額を超過している場合のみ、従業員の平均残存勤務期間にわたって償却されます。

日本会計基準では、退職給付債務に年金資産、過去勤務債務および回廊額と無関係に一定期間にわたり償却される数理計算上の差異の未認識残高を調整した金額を、前払年金費用または退職給付引当金として四半期連結貸借対照表に認識します。

## 2 会計方針の変更および将来適用予定の会計基準

### (1) 会計方針の変更

平成23年6月、米国財務会計基準審議会（Financial Accounting Standards Board、以下、FASBという。）は包括利益の表示に関する新たな指針を公表しました。この指針は、当期純利益およびその他の包括利益を、一連の1つの計算書または連続した2つの計算書のいずれかで開示することを要求しています。トヨタは平成23年12月15日より後に開始する連結会計年度の期中会計期間よりこの指針を適用しました。この指針の適用はトヨタの四半期連結財務諸表に重要な影響を及ぼすものではありません。

### (2) 将来適用予定の最近公表された会計基準

平成23年12月、FASBは資産および負債の相殺に係る開示に関する新たな指針を公表しました。この指針は、貸借対照表において相殺の対象となる金融商品などの資産と負債の総額および純額の情報に関する追加の開示を要求しています。この指針は、平成25年1月1日以降に開始する連結会計年度およびその期中会計期間より適用となります。マネジメントはこの指針の適用はトヨタの連結財務諸表に重要な影響を及ぼすものではないと考えています。

平成25年2月、FASBはその他の包括利益累計額からの組替項目に関する新たな指針を公表しました。この指針は、その他の包括利益累計額の各内訳項目から生じた組替調整額に関する情報を連結財務諸表本体または注記のいずれかに表示することを要求しています。この指針は、平成24年12月15日より後に開始する連結会計年度およびその期中会計期間より適用となります。マネジメントはこの指針の適用はトヨタの連結財務諸表に重要な影響を及ぼすものではないと考えています。

## 3 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

### 税金費用の計算

税金費用は税金等調整前四半期純利益に、年間の見積実効税率を乗じることにより計算されています。この見積実効税率は投資税額控除、外国税額控除および見積実効税率に影響を及ぼすと考えられるその他の項目を反映しており、これには評価性引当金の増減も含まれます。

#### 4 デリバティブ金融商品

トヨタは、金利および為替の変動によるリスクを管理するために、先物為替予約取引、通貨オプション取引、金利スワップ取引、金利通貨スワップ取引および金利オプション取引等のデリバティブ金融商品を利用しています。トヨタはデリバティブ金融商品を投機もしくは売買目的で使用していません。

##### (1) 公正価値ヘッジ

トヨタは、主に固定金利借入債務を変動金利借入債務に変換するために金利スワップ取引および金利通貨スワップ取引を利用しています。トヨタは、金利の変動によるリスクを管理するために金利スワップ取引を利用しています。金利スワップ取引は、特定の借入取引とひも付きで、もしくは包括的に実行されます。トヨタは、外貨建債務の元本および利息の支払における為替変動リスクをヘッジするために、金利通貨スワップ取引を利用しています。外貨建債務は、外貨建元本および利息を、あらかじめ合意された為替レートおよび金利でそれぞれの機能通貨建債務に変換する金利通貨スワップ取引を同時に実行することによりヘッジされています。

平成23年12月31日および平成24年12月31日に終了した各9ヶ月間および各3ヶ月間における公正価値ヘッジの非有効部分に関連する損益に金額的重要性はありません。公正価値ヘッジに関しては、デリバティブ評価損益のすべての構成要素をヘッジの有効性の評価に含めています。

##### (2) ヘッジ指定されていないデリバティブ金融商品

トヨタは、為替および金利の変動によるリスクを管理するために、先物為替予約取引、通貨オプション取引、金利スワップ取引、金利通貨スワップ取引および金利オプション取引等を経済的な企業行動の観点から利用していますが、ヘッジ会計を適用することができない、もしくは適用することを選択しなかったものがあります。

(3) デリバティブ金融商品の公正価値および損益

平成24年3月31日および平成24年12月31日現在におけるデリバティブ金融商品の公正価値は次のとおりです。

	金額：百万円	
	平成24年3月31日	平成24年12月31日
ヘッジ指定されている デリバティブ金融商品：		
金利通貨スワップ		
流動資産－前払費用及びその他	7,166	229
投資及びその他の資産－その他	61,174	56,537
合計	68,340	56,766
流動負債－その他	△ 2,060	△ 1,400
固定負債－その他	△ 303	△ 348
合計	△ 2,363	△ 1,748
ヘッジ指定されていない デリバティブ金融商品：		
金利通貨スワップ		
流動資産－前払費用及びその他	61,983	29,149
投資及びその他の資産－その他	157,642	167,006
合計	219,625	196,155
流動負債－その他	△ 38,338	△ 36,748
固定負債－その他	△ 120,666	△ 111,101
合計	△ 159,004	△ 147,849
先物為替予約・オプション		
流動資産－前払費用及びその他	9,531	2,952
投資及びその他の資産－その他	—	—
合計	9,531	2,952
流動負債－その他	△ 21,736	△ 67,675
固定負債－その他	△ 70	△ 5
合計	△ 21,806	△ 67,680

平成24年3月31日および平成24年12月31日現在におけるデリバティブ金融商品の想定元本は次のとおりです。

	金額：百万円	
	平成24年3月31日	平成24年12月31日
ヘッジ指定されている デリバティブ金融商品：		
金利通貨スワップ	344,623	227,186
合計	344,623	227,186
ヘッジ指定されていない デリバティブ金融商品：		
金利通貨スワップ	10,607,666	11,026,538
先物為替予約・オプション	2,199,627	2,056,109
合計	12,807,293	13,082,647

平成23年12月31日および平成24年12月31日に終了した各9ヶ月間および各3ヶ月間におけるデリバティブ金融商品およびヘッジ対象の四半期連結損益計算書への影響は次のとおりです。

	金額：百万円			
	12月31日に終了した9ヶ月間			
	平成23年		平成24年	
	デリバティブ 金融商品	ヘッジ対象	デリバティブ 金融商品	ヘッジ対象
公正価値ヘッジ指定されている デリバティブ金融商品：				
金利通貨スワップ				
金融費用(△)	△ 2,480	2,985	△ 12,613	13,226
支払利息(△)	—	—	—	—
ヘッジ指定されていない デリバティブ金融商品：				
金利通貨スワップ				
金融費用(△)	64,125		15,787	
為替差益・差損(△)＜純額＞	△ 1,041		672	
先物為替予約・オプション				
金融費用(△)	△ 1,796		△ 3,323	
為替差益・差損(△)＜純額＞	78,628		6,439	

	金額：百万円			
	12月31日に終了した3ヶ月間			
	平成23年		平成24年	
	デリバティブ 金融商品	ヘッジ対象	デリバティブ 金融商品	ヘッジ対象
公正価値ヘッジ指定されている デリバティブ金融商品：				
金利通貨スワップ				
金融費用(△)	△ 11,087	11,035	△ 3,409	3,572
支払利息(△)	—	—	—	—
ヘッジ指定されていない デリバティブ金融商品：				
金利通貨スワップ				
金融費用(△)	18,701		△ 50,953	
為替差益・差損(△)＜純額＞	207		1,036	
先物為替予約・オプション				
金融費用(△)	△ 5,124		△ 129	
為替差益・差損(△)＜純額＞	20,354		△ 86,101	

ヘッジ指定されていないデリバティブ金融商品についても、為替および金利の変動によるリスクをヘッジするために利用しており、対象となる債権債務と経済的なリスクを相殺する関係にあります。

なお、デリバティブ金融商品の取引に関連するキャッシュ・フローは、四半期連結キャッシュ・フロー計算書上、営業活動からのキャッシュ・フローに含まれています。



(4) 信用リスクに関する偶発条項

トヨタは金融機関との間で国際スワップ・デリバティブズ協会に基づく基本契約を締結しています。この契約には、格付けが特定の水準を下回った場合に、取引相手より契約の清算あるいは資産の提供が求められる偶発条項が含まれています。

平成24年12月31日現在において、偶発条項を有し、担保考慮後で、純額で負債となっているデリバティブ金融商品の公正価値は5,271百万円です。なお、担保として取引相手に提供している資産の公正価値は6,061百万円です。また、平成24年12月31日現在において、仮に偶発条項に定められた条件に合致した場合、契約の清算あるいは提供に必要な資産の公正価値は最大で5,271百万円です。

## 5 偶発債務

トヨタは、トヨタの製品販売にあたり、販売店と顧客が締結した割賦契約について、販売店の要請に応じ顧客の割賦債務の支払いに関し保証を行っています。顧客が必要な支払を行わない場合には、トヨタに保証債務を履行する責任が発生します。

将来の潜在的保証支払額は、平成24年12月31日現在、最大で1,831,699百万円です。トヨタは、保証債務の履行による損失の発生に備え未払費用を計上しており、平成24年12月31日現在の残高は、4,561百万円です。保証債務を履行した場合、トヨタは、保証の対象となった主たる債務を負っている顧客から保証支払額を回収する権利を有します。

トヨタは、トヨタ車の安全性について潜在的問題がある場合に適宜リコール等の市場処置（セーフティ・キャンペーンを含む）を発表しています。トヨタは、平成21年11月、北米において、アクセルペダルがフロアマットに引っ掛かり戻らなくなる問題に関連して、特定車種のセーフティ・キャンペーンを実施し、その後セーフティ・キャンペーンの対象車種を拡大しました。平成22年1月、北米、欧州および中国等においてアクセルペダルの不具合に関連した特定車種のリコールを実施することを決定しました。また、平成22年2月、日本、北米および欧州等においてプリウスなどの制動装置に関するリコールを実施することを決定しました。前述のリコール等の市場処置をめぐり、以下に述べるとおり、米国では政府による調査に加え、トヨタに関する申し立ておよび訴訟が提起されています。

平成21年11月以降、トヨタ車、レクサス車およびサイオン車には意図せぬ加速を招く欠陥のある車種が含まれていると主張する約200件の集団訴訟が提起されています。平成22年4月、カリフォルニア州中部地区連邦地方裁判所において、約190件の連邦訴訟が審理前手続のため、多管轄係属訴訟として一本化されました。また、意図せぬ加速に関連して、500件以上の個別の人身傷害に関わる製造物責任訴訟や欠陥商品法に基づく訴訟がトヨタに対して提起されています。このうち連邦訴訟は、当該多管轄係属訴訟に併合されました。その後、州地方裁判所に係属する約10件の集団訴訟と人身傷害に関わる製造物責任訴訟が連邦裁判所に統合されました。残りの集団訴訟はカリフォルニア州での統合訴訟として係属中です。

平成24年12月、トヨタと原告は連邦統合訴訟の経済的損失に関する訴訟について和解合意に至ったと発表しました。裁判所は合意内容について仮承認し、平成25年6月に最終承認のヒアリングが予定されています。トヨタは、この和解および以下に述べるオレンジ郡検察当局により提起された民事訴訟や州司法長官による調査を含むその他の潜在的なリコール関連事項の解決に見込まれる費用を、当第3四半期に11億米ドル計上しました。

この和解によりトヨタは、特定の車両部品の保証延長、フロアマットのセーフティ・キャンペーン対象車へのブレーキ・オーバーライド・システム（以下、BOSという。）の無償搭載、BOSの無償搭載の対象とならない車両を保有するお客様への現金の支払い、車両の売却やリース車両の返却により損失を被ったと主張する個人への現金の支払い、および安全関係の研究・教育機関への資金援助などを開始することになっています。この和解に、連邦統合訴訟および米国の様々な州で係属中の人身傷害に関わる製造物責任訴訟は含まれていません。

また、カリフォルニア州裁判所でオレンジ郡の検察当局により提起された訴訟があり、トヨタがカリフォルニア州法に違反して欠陥車を販売したと主張して法定罰則等を求めています。トヨタは、この訴訟についても解決を試みています。

平成22年2月以降、トヨタに対して、様々なハイブリッド車で一定の道路状況における走行時に、タイムリーに停止することができない現象が発生するアンチロックブレーキシステムの欠陥があると主張する約20件の集団訴訟が提訴されました。原告は、アンチロックブレーキシステムに関して安全上の欠陥が存在しているとして、裁判所による修理命令のほか、すべての所有者およびリース顧客（リコールなどの対策を実施してきているモデルの所有者およびリース顧客も含む）に対する金銭的補償を求めています。これらの集団訴訟は2件の訴訟（1件はカリフォルニア州中部地区連邦地方裁判所、1件は同州ロサンゼルス郡の州裁判所）に併合されました。平成25年1月、連邦裁判所は原告のクラス認定に関する申し立てを退ける裁定を下し、代表原告の申し立てに対してトヨタ勝訴の略式判決を出しました。

平成22年2月から3月までの間に、トヨタに対して、トヨタの米国預託証券および普通株式の投資家を代表する6件の株主集団訴訟が提起されました。訴訟では、1934年米国証券取引所法および日本の金融商品取引法違反が主張されていました。これらの訴訟はカリフォルニア州中部地区連邦地方裁判所で一つの訴訟に併合されました。裁判所は、日本の金融商品取引法に基づく主張については、再訴を認めない棄却の決定を行いました。トヨタは、米国預託証券の投資家の請求を解決することに合意しました。和解金額はトヨタにとって重要性があるものではありません。裁判所は和解を仮承認し、平成25年3月に最終承認のヒアリングが予定されています。

トヨタは、これらの案件の多くについて既に解決に至っている、または現在解決を模索していますが、それらのすべてについて抗弁を有していると考えており、解決していない案件については適切に弁明していきます。

平成22年2月、トヨタは、ニューヨーク州南部地区の連邦検察官から召喚状を、米国証券取引委員会から任意要請および召喚状を、それぞれ受領しました。これらの召喚状および任意要請では主に、意図せぬ加速に関する書類および一定の財務記録の提出が要求されています。これらは両当局による協同調査であり、書類の開示に加え、トヨタ関係者および非トヨタ関係者へのインタビューが要請されています。また、平成22年6月、トヨタは、米国証券取引委員会から再度任意要請および召喚状を、ニューヨーク州南部地区の連邦検察官から召喚状を、それぞれ受領しました。これらの任意要請および召喚状では、ステアリング・リレー・ロッドのリコールに関する書類の提出が要求されています。トヨタは、現在行われているニューヨーク州南部地区の連邦検察官と米国証券取引委員会による調査に協力しています。

平成24年6月、トヨタは、平成21年に実施されたアクセルペダルがフロアマットに引っ掛かり戻らなくなる問題に関連するセーフティ・キャンペーンについて、2010年モデルイヤーのRX350およびRX450hを対象車種に追加しました。米連邦高速道路交通安全局（以下、NHTSAという。）の要求により、トヨタはこのセーフティ・キャンペーンに関する追加書類を提出しました。平成24年10月、トヨタは、2008-2011年モデルイヤーのランドクルーザーを対象車種に追加しました。平成24年12月、トヨタは、2010年モデルイヤーのRX350およびRX450hのセーフティ・キャンペーンの適時性についてNHTSAと和解に至り、和解に際し、米財務省に17,350千米ドルを支払うことで合意したと発表しました。

また、トヨタは、数々のリコール、それらのリコールの根底にある事実、およびそれらのリコールに関連した顧客への対応に関して、30の州および1属領の司法長官による執行委員会を含む様々な州の司法長官および地方政府機関から、召喚状および正式ならびに非公式の要請を受けました。トヨタは、平成25年2月にこれらの調査を終結させる合意に至るものとみています。

トヨタは、これらのリコール関連の訴訟に関して見積計上した金額以上の合理的な可能性がある損失の範囲を現時点で予測することはできません。その理由は以下のとおりです。(1) 多くの訴訟手続が証拠収集の段階にあること、(2) 関連する多くの事実関係が確定される必要があること、(3) 申し立ての法的根拠および性質が不明であること、(4) 申し立てや上訴に対する今後の裁判所の判断が不明であること、(5) 同種の他の案件の結果が様々で、意味ある指針となるような十分な類似性を見出せないことによります。現時点の情報に基づく予測は不可能ですが、これらの訴訟および調査の結果によっては、トヨタの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローに悪影響を及ぼす可能性があります。

この他にも、トヨタに対して、米国における製造物責任に関する請求を含む、様々な訴訟、行政手続や賠償請求が行われています。前述のリコール等の市場処置に関する訴訟と同様に、トヨタは、現時点では、これらの訴訟等に関連して見積計上した金額以上の合理的な可能性がある損失の範囲を予測することができません。しかしながら、現時点でトヨタにとって利用可能な情報に基づき、トヨタは、これらの訴訟等から損失が生じたとしても、トヨタの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローに重大な影響を与えることはないと考えています。

欧州連合は加盟国に対し、各自動車メーカーが廃棄自動車の回収およびその後の解体とリサイクル費用を負担する法令等を制定するよう指令しました。現時点では、特に自動車メーカーの責任および結果として生じる費用負担に関し、それぞれの加盟国で制定される法令の実施面において、不確実性が存在しています。トヨタは現時点で成立している法令に基づき、見積債務を計上しています。トヨタは、指令を遵守することで重要な現金支出が必要になるとは考えていませんが、引き続き、将来の法令の制定がトヨタの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローに与える影響を評価しています。

## 6 セグメント情報

### 【セグメント情報】

以下に報告されているオペレーティング・セグメントは、そのセグメントの財務情報が入手可能なもので、その営業損益がマネジメントによって経営資源の配分の決定および業績の評価に定期的に使用されているものです。

トヨタの世界的事業の主要部分は、自動車および金融で成り立っています。自動車セグメントでは、セダン、ミニバン、2BOX、スポーツユーティリティビークル、トラック等の自動車とその関連部品・用品の設計、製造および販売を行っています。金融セグメントでは、主として当社および当社の関係会社が製造する自動車および他の製品の販売を補完するための金融ならびに車両および機器のリース事業を行っています。その他セグメントでは、住宅の設計、製造および販売、情報通信事業等を行っています。

以下は、平成23年12月31日および平成24年12月31日に終了した各9ヶ月間および各3ヶ月間におけるトヨタの事業別セグメント、所在地別および海外売上高に関する情報です。

### (1) 事業別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（平成23年12月31日に終了した9ヶ月間）

（単位：百万円）

	自動車	金融	その他	消去	連結
売上高					
外部顧客への売上高	11,696,038	806,311	378,778	—	12,881,127
セグメント間の 内部売上高	19,425	21,986	339,069	△ 380,480	—
計	11,715,463	828,297	717,847	△ 380,480	12,881,127
営業費用	11,868,302	573,788	694,592	△ 372,666	12,764,016
営業利益・損失(△)	△ 152,839	254,509	23,255	△ 7,814	117,111

当第3四半期連結累計期間（平成24年12月31日に終了した9ヶ月間）

（単位：百万円）

	自動車	金融	その他	消去	連結
売上高					
外部顧客への売上高	14,988,873	826,394	411,839	—	16,227,106
セグメント間の 内部売上高	29,215	21,385	346,200	△ 396,800	—
計	15,018,088	847,779	758,039	△ 396,800	16,227,106
営業費用	14,476,303	604,225	720,159	△ 392,088	15,408,599
営業利益	541,785	243,554	37,880	△ 4,712	818,507

前第3四半期連結会計期間（平成23年12月31日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	自動車	金融	その他	消去	連結
売上高					
外部顧客への売上高	4,464,150	263,548	137,507	—	4,865,205
セグメント間の 内部売上高	7,311	7,930	134,657	△ 149,898	—
計	4,471,461	271,478	272,164	△ 149,898	4,865,205
営業費用	4,414,290	187,974	256,896	△ 143,639	4,715,521
営業利益	57,171	83,504	15,268	△ 6,259	149,684

当第3四半期連結会計期間（平成24年12月31日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	自動車	金融	その他	消去	連結
売上高					
外部顧客への売上高	4,879,235	293,929	145,588	—	5,318,752
セグメント間の 内部売上高	9,999	7,382	116,506	△ 133,887	—
計	4,889,234	301,311	262,094	△ 133,887	5,318,752
営業費用	4,845,510	232,263	246,673	△ 130,451	5,193,995
営業利益	43,724	69,048	15,421	△ 3,436	124,757

## (2) 所在地別情報

前第3四半期連結累計期間（平成23年12月31日に終了した9ヶ月間）

（単位：百万円）

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
売上高							
外部顧客への売上高	4,929,968	3,251,192	1,431,512	2,086,012	1,182,443	—	12,881,127
所在地間の 内部売上高	2,747,728	67,711	54,576	145,360	101,775	△3,117,150	—
計	7,677,696	3,318,903	1,486,088	2,231,372	1,284,218	△3,117,150	12,881,127
営業費用	7,984,156	3,167,026	1,477,540	2,060,350	1,188,254	△3,113,310	12,764,016
営業利益・損失(△)	△ 306,460	151,877	8,548	171,022	95,964	△ 3,840	117,111

当第3四半期連結累計期間（平成24年12月31日に終了した9ヶ月間）

（単位：百万円）

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
売上高							
外部顧客への売上高	5,813,559	4,492,921	1,462,412	3,061,504	1,396,710	—	16,227,106
所在地間の 内部売上高	3,568,958	75,831	55,584	212,985	117,980	△4,031,338	—
計	9,382,517	4,568,752	1,517,996	3,274,489	1,514,690	△4,031,338	16,227,106
営業費用	9,116,022	4,403,261	1,496,688	2,988,181	1,423,645	△4,019,198	15,408,599
営業利益	266,495	165,491	21,308	286,308	91,045	△ 12,140	818,507

(注) 「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカからなります。

前第3四半期連結会計期間（平成23年12月31日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
売上高							
外部顧客への売上高	1,925,799	1,353,327	500,044	658,321	427,714	—	4,865,205
所在地間の 内部売上高	1,098,364	26,203	26,956	45,863	32,459	△1,229,845	—
計	3,024,163	1,379,530	527,000	704,184	460,173	△1,229,845	4,865,205
営業費用	3,054,710	1,289,196	516,525	663,701	422,278	△1,230,889	4,715,521
営業利益・損失(△)	△ 30,547	90,334	10,475	40,483	37,895	1,044	149,684

当第3四半期連結会計期間（平成24年12月31日に終了した3ヶ月間）

（単位：百万円）

	日本	北米	欧州	アジア	その他	消去	連結
売上高							
外部顧客への売上高	1,765,672	1,510,486	494,529	1,047,203	500,862	—	5,318,752
所在地間の 内部売上高	1,210,589	14,530	13,860	65,378	29,473	△1,333,830	—
計	2,976,261	1,525,016	508,389	1,112,581	530,335	△1,333,830	5,318,752
営業費用	2,960,596	1,542,136	499,136	1,020,798	497,998	△1,326,669	5,193,995
営業利益・損失(△)	15,665	△ 17,120	9,253	91,783	32,337	△ 7,161	124,757

（注） 「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカからなります。

売上高は、外部顧客に対して販売している当社または連結子会社の所在国の位置を基礎とした地域別に集計されています。

事業別セグメントもしくは所在地間取引は、マネジメントが独立企業間価格であると考えている価格で行っています。報告セグメントの損益を測定するにあたって、営業利益は売上高から営業費用を控除したものと計算しています。



### (3) 海外売上高

以下は、平成23年12月31日および平成24年12月31日に終了した各9ヶ月間および各3ヶ月間におけるトヨタの本邦以外の国または地域における売上高です。

トヨタは、米国会計基準で要求される開示に加え、財務諸表利用者に有用な情報を提供するため、当該情報を開示しています。

#### 前第3四半期連結累計期間（平成23年12月31日に終了した9ヶ月間）

	北米	欧州	アジア	その他	計
海外売上高(百万円)	3,292,426	1,353,058	2,240,853	2,173,745	9,060,082
連結売上高(百万円)	—	—	—	—	12,881,127
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	25.5	10.5	17.4	16.9	70.3

#### 当第3四半期連結累計期間（平成24年12月31日に終了した9ヶ月間）

	北米	欧州	アジア	その他	計
海外売上高(百万円)	4,532,575	1,381,813	2,962,954	2,876,190	11,753,532
連結売上高(百万円)	—	—	—	—	16,227,106
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	27.9	8.5	18.3	17.7	72.4

#### 前第3四半期連結会計期間（平成23年12月31日に終了した3ヶ月間）

	北米	欧州	アジア	その他	計
海外売上高(百万円)	1,369,339	473,948	738,882	776,618	3,358,787
連結売上高(百万円)	—	—	—	—	4,865,205
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	28.1	9.7	15.2	16.0	69.0

#### 当第3四半期連結会計期間（平成24年12月31日に終了した3ヶ月間）

	北米	欧州	アジア	その他	計
海外売上高(百万円)	1,509,375	470,179	933,356	1,012,572	3,925,482
連結売上高(百万円)	—	—	—	—	5,318,752
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	28.4	8.8	17.6	19.0	73.8

(注) 「その他」は、中南米、オセアニア、アフリカ、中近東ほかからなります。

## 7 1株当たり情報

平成23年12月31日および平成24年12月31日に終了した各9ヶ月間および各3ヶ月間の基本および希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の差異の調整は次のとおりです。

	金額：百万円		単位：千株	
	当社株主に 帰属する 四半期純利益	加重平均 株式数	1株当たり当社 株主に帰属する 四半期純利益	
平成23年12月31日に終了した9ヶ月間：				
普通株式に係る基本1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	162,525	3,135,688	51円83銭	
希薄化の影響				
希薄化効果を有するストックオプション	(1)	—		
普通株式に係る希薄化後1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	162,524	3,135,688	51円83銭	
平成24年12月31日に終了した9ヶ月間：				
普通株式に係る基本1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	648,183	3,166,813	204円68銭	
希薄化の影響				
希薄化効果を有するストックオプション	(14)	18		
普通株式に係る希薄化後1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	648,169	3,166,831	204円67銭	
平成23年12月31日に終了した3ヶ月間：				
普通株式に係る基本1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	80,944	3,135,683	25円81銭	
希薄化の影響				
希薄化効果を有するストックオプション	(0)	—		
普通株式に係る希薄化後1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	80,944	3,135,683	25円81銭	
平成24年12月31日に終了した3ヶ月間：				
普通株式に係る基本1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	99,914	3,166,826	31円55銭	
希薄化の影響				
希薄化効果を有するストックオプション	(4)	114		
普通株式に係る希薄化後1株当たり 当社株主に帰属する四半期純利益	99,910	3,166,940	31円55銭	

特定のストックオプションは、権利行使価格が普通株式の期中平均株価より高かったため、平成23年12月31日に終了した9ヶ月間および3ヶ月間、ならびに平成24年12月31日に終了した9ヶ月間および3ヶ月間の希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の計算には含まれていません。

平成24年6月15日に開催された定時株主総会で承認され、平成24年6月18日に効力発生した期末現金配当金の総額は95,004百万円であり、1株当たり配当額は30円です。また、平成24年11月5日に開催された取締役会で決議され、平成24年11月27日に効力発生した中間現金配当金の総額は95,004百万円であり、1株当たり配当額は30円です。

## 8 公正価値測定

トヨタは米国会計基準に基づき、公正価値をその測定に用いた情報によって以下の3つのレベルに分類しています。

### レベル1

活発な市場における同一資産および負債の市場価格

### レベル2

活発な市場における類似資産および負債の市場価格、活発でない市場における同一または類似資産および負債の市場価格、もしくは市場価格以外の観測可能な市場情報を基に測定した評価額

### レベル3

報告企業自身の仮定を使用した、観測不能な情報を基に測定した評価額

平成24年3月31日および平成24年12月31日現在において、トヨタが継続的に公正価値で測定している資産および負債は次のとおりです。

金額：百万円				
平成24年3月31日				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
現金同等物	485,119	223,385	—	708,504
定期預金	—	50,000	—	50,000
有価証券及び その他の投資有価証券				
国債	3,596,625	5,287	—	3,601,912
株式	1,034,319	—	—	1,034,319
その他	40,711	454,549	1,684	496,944
デリバティブ金融商品	—	289,931	7,565	297,496
合計	5,156,774	1,023,152	9,249	6,189,175
負債：				
デリバティブ金融商品	—	△ 180,347	△ 2,826	△ 183,173
合計	—	△ 180,347	△ 2,826	△ 183,173
金額：百万円				
平成24年12月31日				
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
現金同等物	226,154	177,666	—	403,820
定期預金	—	65,782	—	65,782
有価証券及び その他の投資有価証券				
国債	4,265,633	—	—	4,265,633
株式	1,138,298	—	—	1,138,298
その他	73,296	487,163	3,699	564,158
デリバティブ金融商品	—	247,976	7,897	255,873
合計	5,703,381	978,587	11,596	6,693,564
負債：				
デリバティブ金融商品	—	△ 215,113	△ 2,164	△ 217,277
合計	—	△ 215,113	△ 2,164	△ 217,277

上記の資産および負債の概要、ならびに公正価値を測定するために用いた評価手法および主要な情報は次のとおりです。

(1) 現金同等物および定期預金

現金同等物は、契約上の満期が3ヶ月以内のマネー・マーケット・ファンド等から構成されています。レベル2の現金同等物は、契約上の満期が3ヶ月以内の譲渡性預金等から構成され、主に取引市場金利等に基づいて公正価値測定されています。定期預金は、契約上の満期が3ヶ月超の譲渡性預金であり、主に取引市場金利等に基づいて公正価値測定されています。

(2) 有価証券及びその他の投資有価証券

有価証券及びその他の投資有価証券は、国債および株式等から構成されています。平成24年3月31日および平成24年12月31日現在、国債の構成割合は、それぞれ日本国債60%、米国・欧州などの外国債40%、および日本国債51%、米国・欧州などの外国債49%となっており、株式はそれぞれ83%および84%が日本市場の上場株式です。これらは、それぞれ同一資産の市場価格により測定しています。その他にはコマーシャル・ペーパー等が含まれ、主に類似資産の市場価格または活発でない市場における同一資産の市場価格により測定しています。これらの資産の公正価値はレベル2に区分しています。

(3) デリバティブ金融商品

デリバティブ金融商品の概要については、注記4を参照ください。デリバティブ金融商品は、金利、為替レートなどの観測可能な市場情報および契約条項を利用した標準的な評価手法を用いて測定しており、測定に重要な判断を必要としません。これらのデリバティブ金融商品はレベル2に分類しています。観測可能な市場情報を入手できない場合には、取引相手から入手した価格やその他の市場情報により測定し、観測可能な市場情報を用いて当該価格の変動の妥当性を検証しています。これらのデリバティブ金融商品はレベル3に分類しています。また、倒産確率などを用い、取引相手およびトヨタの信用リスクを考慮して測定しています。

平成23年12月31日および平成24年12月31日に終了した各9ヶ月間および各3ヶ月間において、レベル3に分類された、継続的に公正価値で測定している資産および負債に重要な変動はありません。

特定の資産および負債は非継続的に公正価値で測定されますが、平成23年12月31日および平成24年12月31日に終了した各9ヶ月間および各3ヶ月間において、非継続的に公正価値で測定された資産および負債に重要なものはありません。

## 2 【その他】

平成24年11月5日開催の取締役会において、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して行う中間配当につき、次のとおり決議しました。

① 中間配当総額	95,004,162,210円
② 1株当たり中間配当	30円
③ 支払請求の効力発生日および支払開始日	平成24年11月27日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月14日

トヨタ自動車株式会社

取締役会 御中

## あらた監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	笹山勝則
指定社員 業務執行社員	公認会計士	木内仁志
指定社員 業務執行社員	公認会計士	白畑尚志
指定社員 業務執行社員	公認会計士	市原順二

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトヨタ自動車株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第95条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注1、注2及び注3参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注1、注2及び注3参照）に準拠して、トヨタ自動車株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月14日
【会社名】	トヨタ自動車株式会社
【英訳名】	TOYOTA MOTOR CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 豊田章男
【最高財務責任者の役職氏名】	—
【本店の所在の場所】	愛知県豊田市トヨタ町1番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社名古屋証券取引所 (名古屋市中区栄三丁目8番20号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号) 証券会員制法人福岡証券取引所 (福岡市中央区天神二丁目14番2号) 証券会員制法人札幌証券取引所 (札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1)



## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長 豊田 章男は、当社の平成24年12月第3四半期（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

## 2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。